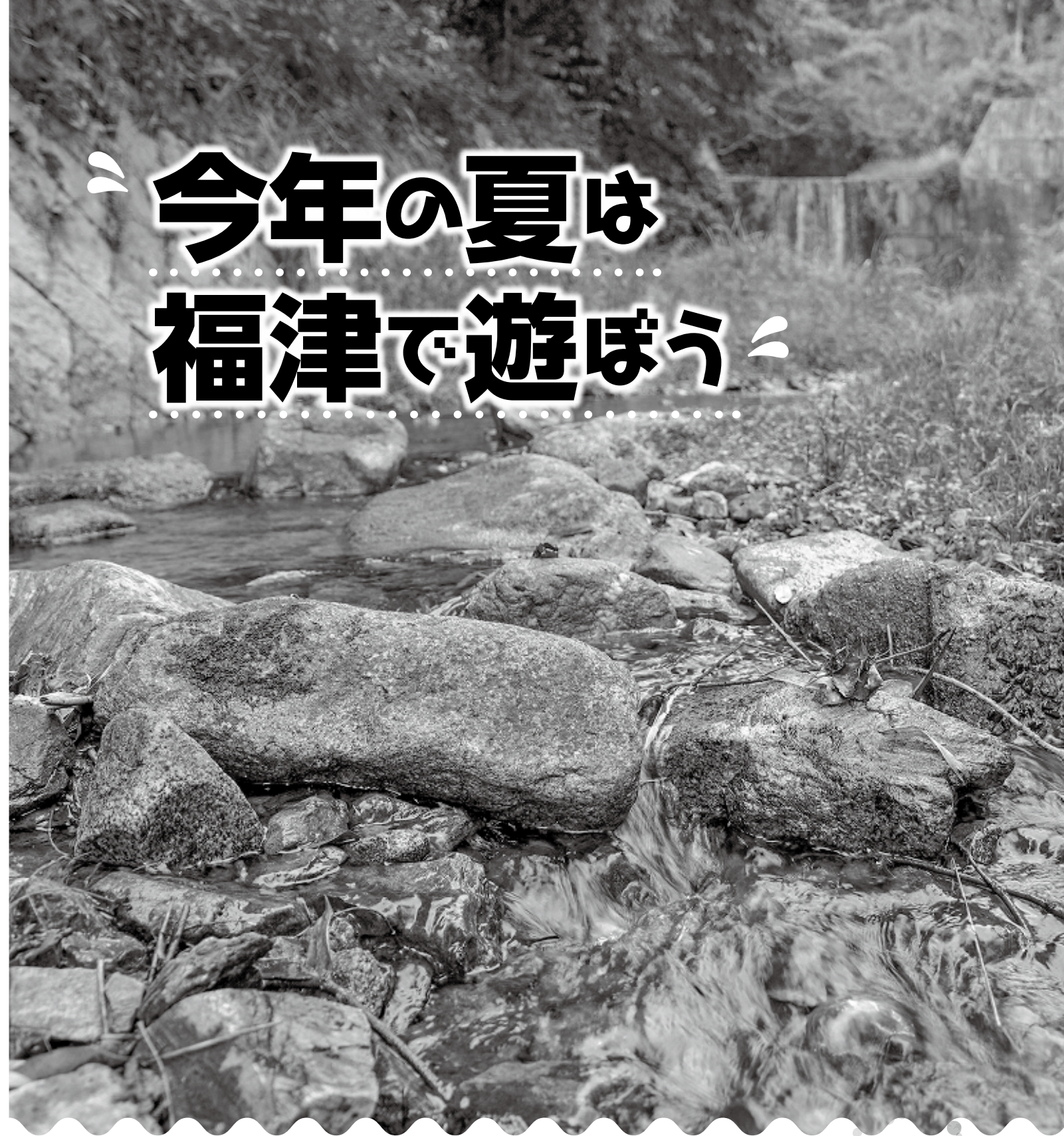


今年の夏は 福津で遊ぼう



4月から5月にかけて、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、外出自粛を余儀なくされる日々が続きました。その後、緊急事態宣言は解除されたものの、完全に収束したとはいえません。

今年の夏は、県外に外出するのをできるだけ避け、市内で過ごしませんか。今回は、市内にある避暑地など、夏のおすすめスポットをご紹介します。

問い合わせ 市まちづくり推進室 ☎43・8113

大峰山



津屋崎漁港のすぐ西側、渡半島に位置する大峰山。大峰山から薬師岳を通って戻ってくる傾斜が緩いコースは、距離にして約5km、歩いて2時間ほどなので、心地良い達成感があります。また、東郷神社などの歴史あるものが数多くあり、所々に玄海灘を見渡せるポイントがあります。360度見渡せる山頂からの景色は絶景です。階段や崖には注意が必要ですが、自然歩道には標識が整備されていて、歩きやすい登山道なので、子ども連れでも楽しめます。



▲大峰山山頂からの眺望

許斐山



宗像市との市境に位置し、登山道入り口に駐車場がある許斐山。山頂を目指して歩いていると、大木を使って登山道の脇を固めるなど、登山道を守る工夫が随所に施されています。土砂が落ちないように大木で支えながらも、手を加えず、葉や枝が自然に堆積して、より強い道になっているようです。山頂から福津側はほとんど見えませんが、杉並木に囲まれた山道で、疲れてふと立ち止まると、鳥のさえずりや風に揺れた葉の擦れる音に心癒やされます。



▲静かに整然とそびえる許斐山の杉並木

ふくつ 古墳馬車



平成29年に世界文化遺産に登録された新原・奴山古墳群を巡るふくつ古墳馬車。強い日差しや猛暑の中、古墳群を散策するのは大変です。そこで、馬車に乗れば、子ども連れでも快適に古墳群を巡ることができます。また、馬車にはガイドが同乗し、古墳群の話や、馬車を引く馬「オーロ君」の話など、楽しい時間を過ごすことができます。馬車の利用には予約が必要です。詳しくはお問い合わせください。

問い合わせ ホースプラン ☎51・1292



▲力強く馬車を引くオーロ君

宮地岳 に登ろう



▲甘い小豆入りの焼き餅「宮地嶽の松ヶ枝餅」



▲宮地嶽神社を抜けた先にある自然歩道入り口

川や山で遊ぶときの注意点

1. 必ず大人と一緒に行き、子どもから目を離さない
2. 熱中症に注意し、水分補給と休憩をしっかりと
3. 危険な場所に近寄らず、天候にも注意する
4. スズメバチやマムシなど、危険な生物に注意する
5. けがを防ぐため、肌の露出をできるだけ少なくする
6. 生き物を必要以上に捕まえず、乱暴に扱わない
7. ごみは持ち帰る

初心者にお勧め 宮地岳と在自山の縦走

宮地嶽神社の北に位置する宮地岳は、標高182mと低い山ですが、隣の在自山と合わせて歩けば往復1時間以上を要し、傾斜が緩やかなので、初めて登山する人にもお勧めの山です。宮地岳に展望所はありませんが、在自山には玄界灘が広く見渡せる展望所が2カ所あります。

赤とグレー 2つの鳥居を目指して

宮地嶽神社門前町で松ヶ枝餅を購入し、階段を上って振

もとぎ

本木川 で遊ぼう

ほたるの里は ホタルだけじゃない

5月下旬から6月上旬にかけて、ホタルの乱舞を鑑賞できる「ほたるの里」。ホタルだけでなく、公園内を鮮やかに色付ける花々など、四季折々の自然を満喫できます。新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度は開放を中止した、ほたるの里一番の人気スポット「じゃぶじゃぶ池」

ほたるの里の奥へ 害虫には十分な注意を

駐車場から歩くことおよそ10分。じゃぶじゃぶ池を越え、川に沿って緩やかな坂道を上っていくと、背の高い杉の木が日陰をつくっています。川に下りることのできる階段があります。ここまで来る途中「マムシに注意」という看板があるため、しっかり足下に注意しながら、水面から出た石の上を滑らないように歩き、対岸へ。水深10cm弱の浅瀬なので、万が一落ちてしまっても大丈夫です。階段を上ると「風の谷」という東屋やベンチがある広場に出ます。小さな子どもなら走り回って遊ぶそうな広場の壁面には大きなホタルが描かれていて、東屋のベンチでちよつと休憩。静かな場所なので、簡易テントを立てて昼寝をしたり、弁当を食べたりするの

もお勧めです。

水生生物の宝庫で 水辺の生き物探し

上ってきた階段を下り、ここからは水辺の生き物を探します。歩きながらも、小さなカエルが飛び跳ねていたり、小魚が泳いでいたりするのが見えます。川に入ると、冷たい水が火照った体を冷やしてくれます。浅瀬にある大きな石を持ち上げてみると小さなプラナリアが隠れていました。他の石も持ち上げると、今度はサワガニやヨコエビが出てきました。近くにあれば、堤防からは、滝のように水が流れていて、その下は少しだけ深くなっています。持ってきた網を使って、草の根元を探ってみると、アカハライモリなどを発見。この場所は、まさに水生生物の宝庫でした。この他にも、森林浴をしながらウォーキングをするなど、ほたるの里には、さまざまな楽しみ方があります。営業時間は午前9時から午後5時まで。夏の暑さに負けそうなどとき、足を運んでみてはいかがでしょうか。



▲名前どおり腹が赤いアカハライモリ



▲コシボソヤンマの幼虫



▲ヘビトンボの幼虫

された看板のとおり在自山方面に10分ほど進むと、福岡方面を見渡せる展望所に出ます。ここまで来れば、後は上り坂はほとんどありません。金刀比羅神社の古宮を抜け、分岐点を左に進んだ後、足下に気を付けながら急な階段を下ります。その先に、津

屋崎のまちから見える在自山のシンボル、赤とグレーの2つの鳥居と、その向こう側に絶景が広がっています。大空の下、吹き抜ける風がとても気持ちよく、気分爽快です。ここで松ヶ枝餅を食べ、水分補給をしてから、下山もしくは、元来た道を戻りましょう。

◀在自山展望所からの眺望

